

東京55仏教会便り

東京お寺めぐり通信

no.01

2015 Summer



明治・大正・昭和の東京人
小澤一蛙Gallery

一蛙さんとめぐる東京

大正十二年五月二十一日の東京市。午前六時五分、旅支度の三人が品川の「玩狐寺」に着きました。一行はそこから「鴉歡寺」「常春庵」「葉沈寺」「佛喜要寺」「漫作寺」「凡能寺」「狗佛寺」「倶楽寺」「龍横寺」「詩現寺」「相對寺」「金加乱寺」「誓三寺」「女弄寺」「猿戯寺」「童樂寺」「三絃寺」「我樂寺」と巡り歩き、午後八時三十分には辿り着いた「寶來寺」を最後に巡礼のような旅を終えました。

訪ねた先は寺院の名前のようですが、実は普通の家々です。一行は、その名も平凡寺、船舶寺、蛙寶寺の三人。しかし、この三人も僧侶や修行者というわけではありません。彼らは「我樂他宗」という、当時、趣味家と呼ばれたコレクター集団を結成していました。宗員それぞれの家を寺院に見立て、動物の置物や切手、絵馬、御札などのコレクションの交換会を催したり、情報交換のための冊子を発行したりして楽しんでいました。

その日は、同集団の中心メンバーがあいにくの雨の中、「各寺巡礼会」と称して、おそらく品川から横浜あたりまでまる一日かけて二十ヶ寺を回ったのでした。

訪ねた先が留守でもいっこうに気にせず、滞

在時間があまりないので食事等のもてなしは極力遠慮し、せいぜい茶一杯。たばこ一服で、各寺のコレクションを拝見する巡礼の日帰り旅行だったようです。

当時、東京の交通事情は明治36年に品川と新橋間を東京電車鉄道が開通して以来、大正時代には電車を利用できるところが増えました。この日も電車と徒歩での巡礼でした。ここでは、この巡礼者の一人、天禄山蛙寶寺を名乗る小澤一蛙氏(1876・1960)を案内役に、明治・大正・昭和初期の東京にしばし遊んでみたいと思います。

小澤さんは、明治九年、東京・日本橋に生まれ、晩年は吉祥寺にお住まいでした。本名は小澤幸太郎。「蛙」、「蛙寶寺」の他に、やはりお寺を意味する「梵蛙精舎」などと称していることからわかる通り、蛙に関するものを何から何まで集めた人でした。

また、内閣印刷局に勤務して印刻を業とする傍ら版画や彫刻も趣味としていました。ここに掲載した絵馬も小澤さんの作品です。このタイトルページでは小澤さんに関わる品々も紹介していきます。

(カエル文化研究家高山ビッキ)



中央が小澤一蛙さん

Contents

1 東京お寺めぐり

第1回 下谷仏教会

下谷仏教会へようこそ／上野公園で行われる花まつり行事
寛永寺を現代からふり返れば／古い寺町がのこる谷中で歴史散歩／江戸をさらに身近に感じて

2 下谷仏教会のお楽しみいろいろ

通称寺探訪～身近な興味で訪ねてみよう | 蛭沢法縁の縁頭寺、長明寺
探墓で歴史散策～歴史に名を残した人々を偲ぶ | 山岡鉄舟、三遊亭円朝、弘田龍太郎の墓(全生庵)
縁日カレンダー～今日はどこの縁日へ? | 下谷七福神めぐり

中国料理
東天紅

過去から未来へつなぐ、木のご縁
株式会社 下野材木店
卒塔婆・護摩札・絵馬・御守

株式会社 竹澤建築設計事務所



第1回

下谷仏教会

江戸にはじまり、
明治・大正・昭和、
そして平成の東京の姿を探して

ずっと未来志向で発展して来た東京。

その一方で歴史をふり返れば東京には、

江戸時代からの豊かな文化が今も息づいています。

「東京お寺めぐり通信」第一回目は、

下谷仏教会の寺町を紹介しましょう。

なつかしくて新しい東京散策へのご案内します。



下谷仏教会へ ようこそ

東京は、江戸幕府の開府によって都市が形成されて行き、現在の繁栄に至っています。しかし、江戸はいうまでもなく明治、大正、そして昭和も昔となった今、東京に住んでいる人でさえ、その残り香を感じたいと町歩きする人が増えているのではないのでしょうか。

この「東京お寺めぐり通信」では、東京にある55の仏教会(※)を通して、「東京」を再発見したいと思えます。歴史が刻まれた古刹、歴史とともに興亡した寺院、そしてその周囲に生まれた寺町に足を運ぶともうひとつの東京が見えて来るかもしれません。

初回は「下谷仏教会」に属する146の寺院から成る地区を紹介します。ここには、上野の高台に16



25年、徳川三代将軍家光の代に寛永寺が創建されたことのでつくられた門前町がありました。また、谷中にある瑞輪寺は天正19年(1591)、天王寺(古くは感応寺)は鎌倉時代、根岸の世尊寺は応安5年(1372)の創建。それらすでにあつた寺と、その後江戸時代に入つて建てられた多くの寺院とともに、

昨今、谷中・根津・千駄木で「やねせん」と呼ばれる地域につながる大きな寺町を形作っていました。東京のお寺の参拝と周辺の寺町を楽しむこのサイトページの初回に登場していただきました。本サイトでは、宗派もいろいろな寺院が属する各仏教会を紹介する上で、いわれのある寺院を取り上げながら仏教

会全体の地域の魅力や、知っているようで知らないかもしれない東京の寺町文化の断層をお伝えできればと考えています。東京のお寺ワールドへのタイムトリップにしばしおつきあい下さい。

※東京仏教連合会は55の仏教会から成り、2500余りの寺院が加盟しています。

お釈迦さまの誕生を祝う花まつりの日

上野公園で行われる花まつり行事

今年、2015年4月2日、下谷仏教会では桜が満開の上野公園で恒例の行事である花まつりの稚児行列を行いました。

どの地区の仏教会も宗派を問わない複数の寺院が加盟しています。台東区の場合、その数約300と多く、下谷仏教会と浅草仏教会の2つに分かれています。下谷仏教会は10の宗派で構成されています。

同じ仏教会でも各宗派各寺院、祭事などの取り組みはさまざま。下谷仏教会でも合同で営まれるのはお釈迦様の生誕を祝う、この花まつり(灌仏会)と、お盆(盂蘭盆会)に同じく上野公園の不忍池で行われる灯笼流し(流灯会)の2つです。今年も、お花見の名所上野公園が花見客で最も賑わったと報道されたまさにその日に行われま



行列は満開の桜の下、先頭で仏旗を掲げる僧侶(写真上)や導師・式衆(写真下右)、楽僧(写真下左)とともにスタート。

した。

この日参加したお稚児さんは同地区仏教会の幼稚園児73名。不忍池弁天堂の書院でお化粧や着付けを済ませた稚児たちの行列は、お

昼過ぎに清水観音堂石段下から出発。楽僧や虚無僧姿の法竹妙音会の笛や尺八の音、御詠歌(豊山流初音御詠歌講)の声に先導されて、導師や式衆とともに稚児行列は30



(写真上から)①導師を務めた功德林寺の新谷仁海住職による灌仏。②小仏像に献花をして甘茶をかける稚児。③パゴダに響きわたる御詠歌。④上野大仏の御尊顔に見守られて。

稚児たちが甘茶をかけて祈る灌仏会



73名のお稚児さんが親御さんに手を引かれ、観光客に見守られながら30分ほど上野公園を練り歩いた。

分ほど上野公園内を歩き、「上野大仏」の御尊顔(写真④)が残るパゴダ(仏塔)に到着。法要が始まりました。

お稚児さんと付添いの親御さんがパゴダをぐるりと取り囲んで並ぶなか、理事長の山崎正矩興禅寺住職(臨済宗興聖寺派)から、お釈迦様は生まれてすぐ「天上天下唯我独尊」とこの世に生きるものすべての命の尊さを宣言されたとお話があり、今回、導師を務めた功德林寺の新谷仁海住職(浄土宗)による読経と続きました。

その後、お稚児さん全員がパゴダの前に設置された花御堂に献花、小仏像に甘茶をかける灌仏を行いました。花吹雪舞うなかの仏教の楽の音と、幼いながら精一杯厳かに振る舞う稚児たちの様子。そこには死や悲しみに際して求める仏教ではなく、生きる喜びとともにある仏の教えが感じられました。

現代人が上野公園を散策する理由

寛永寺を現代から ふり返れば

皆さんは上野公園にどんなときに足を運ぶでしょうか。毎年場所取りも話題になるお花見、それとも話題の展覧会を観に博物館や美術館へ、家族連れで動物園へ、：：でしょうか。そんななか、ここが江戸時代、寛永寺の寺域だったことを思い起すことはありませんか。

寛永寺は、今でこそ上野公園の北に位置する徳川家ゆかりの寺院や霊園と思われることもあります。が、実際は、先に紹介した花まつりの稚児行列が巡った、不忍池弁天堂、清水観音堂、パゴダ（大仏殿）をはじめ、開山堂（両大師堂）、寛永寺輪王殿、徳川歴代将軍御霊廟、旧本坊表門、旧寛永寺五重塔、時

鐘堂、天海僧正毛髪塔、浅間山観音堂、光明閣などの諸堂と、19の子院で構成される天台宗の寺院です。現在の境内地は約3万坪。ですが、その最盛期の徳川八代将軍吉宗の時代には36万5千坪におよぶ境内地に諸堂30余り、子院36坊を数えました。まさに上野公園全体が寛永寺だったのです。

『江戸名所図会』などを繰れば当時の寛永寺に心遊ばせることは可能かもしれません。「清水堂花見の図」もあり、「そもそも当山は江戸第一の桜花の名勝にして、一山花にあらずといふところなし。」（『新訂江戸名所図会5』（ちくま学芸文庫より））とあり、また、「弥生の花盛りには、都鄙の老若貴となく賤となく、日ごとに袖を連ねてここに群遊し、花のために尺寸の地を争



寛永寺の諸堂。旧寛永寺五重塔（写真上）、時鐘堂（写真右）、根本中堂（写真左）。

ふて、帷幕を張り、筵席を設く。」と、今年も繰り広げられた上野公園のお花見シーンは江戸時代から続いていることが伝わります。

それほど規模と栄華を誇った寛永寺が現在約10分の1になったのはなぜでしょうか。彰義隊がたてこもった幕末の戊辰戦争、全山の伽藍の大部分が焼失、明治政府による境内地の没収。ようやく復興が認められたのが明治12年（1879）で、現在の根本中堂はその時再建されました。創建時の



京都清水寺に倣った清水観音堂。江戸時代に実在した円形の松が最近復活。

「江戸名所図会」の中に遊ぶ



東叡山寺院の本覚院（写真上）と現龍院（写真下）。



上野公園から京成上野駅に向かう通りから望む不忍池弁天堂。

根本中堂は上野公園の噴水広場のあたりにあり、小堀遠州による名園の一部が東京国立博物館に遺っています。

寛永寺は寛永2年に徳川家康、秀忠、家光の三代にわたって帰依を受けた慈眼大師天海によって創建されました。ここは江戸城の鬼門、北東。天台宗の宗祖伝教大師最澄が朝廷の安穩を祈るために京都御所の鬼門に延暦寺を置いたように、天海僧正はここに寛永寺を開いて徳川幕府の安泰と万民の平安を祈願しました。

名称の「寛永寺」も延暦寺にならい、朝廷の許可のもと元号からいただし、山号の東叡山は「東の比叡山」を意味しています。また、琵琶湖の竹生島ちくぶしまに見立てて不忍池には弁天堂のある中島を造営、清水観音堂も京都の清水寺同様舞台造りにしています。初代歌川広重も浮世絵に描いた「上野清水堂不忍池」。最近、その絵に描かれた「月の松」が復活しました（写真上）。



徳川家の威光を今に伝える上野東照宮の銅灯籠。諸大名から奉納された48基（国指定重要文化財）

谷中はまるで寺町テーマパーク

古い寺町がのこる 谷中で歴史散歩

根本中堂のある寛永寺境内を出てすぐ、言問い通りを根津駅に向かって歩くと、元は酒店だった下町風俗資料館を過ぎて一つめの角に一乗寺(日蓮宗)があります。天正年間の創建とされる古刹。

「谷中には江戸時代に入って神田の方から多くの寺院が移転してきました。大きな寺町になって、どこにどのお寺があるかわからないうちほど。うちはちようど角に位置したことから「かどいち」と呼ばれて目印になっていました」(写真右)と解説くださったのは同寺の肉倉堯雄住職です。

谷中は、震災や戦災の被害をあまり受けなかったことで、今も古い寺院や昔なつかしい町並みを見ることが出来ます。その中心を成すのは、今は都民霊園となつている谷中霊園。江戸時代までは谷中天王寺の墓域でした。さらに遡れば、同寺は元々鎌倉時代に創建された日蓮宗寺院感応寺でした。元禄11年(1698)に天台宗に改宗、天王寺に。

江戸の谷中の賑わいの理由のひとつに、1700年頃から盛んになった富くじの興行があったといわれます。ここは湯島天神、目黒不動と並んで「江戸三富」と呼ばれました。

また同寺には、明治の文豪幸田



寛永寺両大師堂と輪王殿の境界の門に据えられた幸田露伴旧宅の門。門の向こうに東京スカイツリーが見える。



谷中霊園内の五重塔跡。昭和32年の7月6日未明に焼失した。



明治時代の一乗寺。現在は道路拡張のため手前の塀の部分がなくなっている。

露伴(1867・1949)の作品『五重塔』に描かれた五重塔跡があります。この塔は「江戸四塔」に数えられた塔で、寛永21年(1644)の建立。消失と再建を繰り返した。ついに、昭和32年に焼失しました。

下谷生まれの露伴の旧宅の門が谷中から移築されて、今、寛永寺の両大師堂と輪王殿の境界の門に据えられています。小説『五重塔』の主人公は、現寛永寺根本中堂を手掛けた、大工の棟梁をモデルにしているといわれています。この門の向こうに東京スカイツリーを見ると、歴史がいくえ幾にも重なった時間の「塔」のように感じられました。

江戸をさらに 身近に感じて

東京メトロ千駄木駅を出て、団子坂交差点から谷中方面へ上る坂道が三崎坂さんさきざか。かつてこの辺りのお寺の僧侶が首を振りながら歩いた姿が見られたことから「首ふり坂」の別名もあります。

ここから根津駅、寛永寺、天王寺、JR日暮里駅をポイントにした半径約1キロを、自分の足と持ち時間の限界を意識しながら谷中界隈を歩けば、歴史が生み出した寺町をテーマパークのように楽しむことができるでしょう。マップを手にさまざまな寺院の所在地を確認しながら、谷中の寺町ならで



「かさもりいなり」の大円寺。
全国でも珍しく本堂が2つある。



上野桜木通りにある和菓子店「喜久月」で見つけた
陶製のカエルを配した手水。

昔なつかしい小物や 和菓子の店を覗く



文学好きを魅了する個性的な喫茶店もある。



千代紙や絵馬など和の小物のお店も楽しい谷中散歩。



谷中銀座商店街で見つけた草履の店。

はの江戸情趣あふれる小物やお菓子の店、古い建物を活かしたギャラリーやカフェなどについて足が止まります。

三崎坂を少し上ると谷中小学校と道を挟んで大円寺があります。ここは瘡守稲荷かさもりいなりが安置されていることで知られます。谷中と深い関わりがある「かさもりいなり」とは。元々は天王寺になる前の感応寺に笠森稲荷がありました。場所は江戸時代までの谷中霊園の西の門（現在功德林寺がある）あたり。そのそばに「鍵や」という水茶屋があり、そこにいたのが浮世絵師鈴木春信に描かれて広く知れわたった美女のお仙、「笠森お仙」でした。

一方、大円寺の「かさもりいなり」は、五代將軍綱吉に仕えていた大前孫兵衛近江守重職おおまえまごべいおうのみかみしげもとに由来し、この重職が関西の生国で幼い頃から「笠森稲荷」を信仰し、悪質な腫物を患ったときに土の団子をお供えて願をかけたところ間もなく治ったことでそれが「瘡守稲荷」として庶民に信仰されるように。その尊像を享保10年（1725）に孫兵衛の菩提寺である大円寺に移したことからここが「谷中の瘡守稲荷」になりました。明治以降、谷中の寺院もさまざまな運命を辿るなかで、現在、鈴木春信と笠森お仙の2碑も、大円寺で観ることができません。

また、日蓮宗の瑞輪寺は徳川家康入府の一年後の天正19年（1591）に建てられた古刹ですが、ここには家康の家臣、大久保主水の墓があります。家康の命を受け、



夕やけだんだんの石段を下りて谷中商店街へ。

日暮しの里で見る 美しい夕日



夕焼けだんだんや七面坂近くにある大黒天経王寺は、幕末に彰義隊の分屯所だった。

日本初の都市水道とされる神田上水を建設した大久保忠行。その貢献により「主水」（家康は水が濁ってはいけなくてもんどではなくもんとと呼ばせた）という名前を与えられました。

餅菓子作りが趣味だったという大久保主水の子孫は名字帯刀を許された菓子司として仕えたといわれています。谷中には古い店構えの和菓子店もあります。その菓子の美味しさに大久保主水の面影を映すのも粋な楽しみ方かもしれま

せん。

さて、江戸地図を見ると、谷中天王寺の北には寺院は少なくなり田畑が広がっています。そして、道灌山の西に「佐竹右京」の名が見え、そこには秋田久保田藩主佐竹右京太夫の江戸屋敷がありました。当初現在の神田にあった絢爛たる金彫の「日暮らしの門」を構えた上屋敷が、天和2年（1682）の八百屋お七による大火で焼け、この地に移転。江戸藩校も設けて秋田久保田藩の重要な政治的、文化的拠点を築いていたようです。

その近くには「日暮らしの里」の地名も。今、谷中を巡って人の流れに乗れば、日暮里駅から通じる「谷中銀座商店街」の賑わいに吸い寄せられるでしょう。ここが往時の「日暮らしの里」。江戸地図に残るその近くの「蛭沢」は「ほたる坂」、「七面明神」は「七面坂」となつて今につながります。

21世紀の谷中を歩いているつもりが、いつしか江戸の昔に帰っていく。「夕やけだんだん」の石段から見える夕日の美しさを、できればいにしえの人々と分かち合いたいものです。



古い建物を活かし、テーマパークのような演出も効かせた谷中商店街



六三除虫封の寺

信仰

蓮華寺(日蓮宗)

〒110-0001 台東区谷中4-3-1
TEL.03-3828-5903

昔から谷中六三除・虫封の寺として有名。六三除とは年齢による身体の部分的な厄除けのこと。赤門の寺。四季折々の花が何かしら咲いています。



へちま寺

信仰

浄名院(天台宗山門派)

〒110-0002 台東区上野桜木2-6-4
TEL.03-3828-2791

境内にたくさんある地蔵のうち、「へちま地蔵」に加持祈祷すると咳・ぜん息に効用があるとされています。



日荷堂

信仰

延壽寺(日蓮宗)

〒110-0001 台東区谷中1-7-36
TEL.03-3821-5502

「健脚の神様」日荷上人が祀られています。
<http://nichika-do.jp>



ハトの寺

自然・動物

永稱寺(浄土真宗本願寺派)

〒110-0003 台東区根岸3-12-44
TEL. 03-3876-2414

戦後、上野の山から飛んできた土鳩が巣をつくり、多いときで200～300羽見られたことからハトの寺と呼ばれました。



もみじ寺

自然・植物

正燈寺(臨済宗妙心寺派)

〒110-0012 台東区竜泉1-23-11
TEL.03-3872-4572

関東大震災や戦争で焼けて今は見られないが、江戸時代は享保の頃に紅葉の名所として人気に。小林一茶、加舎白雄などの俳人が句に詠んでいます。



講道館柔道発祥の寺

文学

永昌寺(浄土宗)

〒110-0015 台東区東上野5-1-2
TEL. 03-3841-5289

「講道館柔道発祥の地」の碑があります。



萩寺

自然・植物

宗林寺(日蓮宗)

〒110-0001 台東区谷中3-10-22
TEL. 03-3821-0626

七面坂下にある、境内に萩が多かったので萩寺と呼ばれた。秋のお彼岸の頃(9月の終わりから10月の始め)が見頃です。



菖蒲寺

自然・植物

立善寺(日蓮宗)

〒110-0001 台東区谷中5-4-19
TEL.03-3821-3941

門前にバイキンマンの像があり、6月頃そのまわりで菖蒲が見られます。



藤寺

自然・植物

圓光寺(臨済禅宗妙心寺派)

〒110-0003 台東区根岸3-11-4
TEL.03-3872-0762

同寺周辺の古い道は昔から「ふぢでら横丁」と呼ばれた。外からも藤棚を見ることができます。



蛭沢法縁の縁頭寺、長明寺

江戸地図に蛭沢の地名が残る谷中界隈。「江戸名所図絵」によれば、蛭沢は「谷中宗林寺の境内にあり。また妙林寺の池も蛭沢と唱ふ。すべてこの辺り、蛭の光、他に勝れたり。」とあり、芭蕉の句「草の葉を落つより飛ぶほたるかな」が付されています。この辺り一帯が通称「蛭沢の寺」だったと考えられます。創建400年の歴史をもつ日蓮宗長明寺は、かつて蛭沢を介したお寺のつながりである「蛭沢法縁」の縁頭寺でした。生物学的探究にも熱心だった水戸光圀公もしばしば訪れたと伝えられるこの寺の境内は、今も豊かな緑に包まれています。通称寺を意識してかつてあった東京の自然環境を想像して散歩するのも楽しい試みかもしれません。

下谷仏教会のお楽しみいろいろ

通称寺探訪

身近な興味で訪ねてみよう

寺院の正式名称が知られていなくても、親しみのこもった通称で

呼ばれているお寺があります。

下谷仏教会にもそんな通称寺がいろいろ。

季節ごとの自然を愛でたり、

文学の世界に遊んだり、健康を祈ったりと、

自分の関心ごとからお寺を訪ねてみませんか。

探墓で歴史散策

歴史に名を残した人々を偲ぶ

寺院の墓地には、歴史上の人物やさまざまな分野で活躍した著名人のお墓もあります。下谷仏教会にある、江戸から平成にかけて歴史に名を刻んだ人々のお墓をご紹介します。

歴史

伊東玄朴 | いとうげんぼく

天龍院 (臨済宗妙心寺派)
〒110-0001 台東区谷中4-4-33
TEL.03-3821-3857

幕末から明治にかけての蘭方医。シーボルトに師事し、日本初の種痘に成功した。

歴史

大田錦城 | おおたきんじょう

一乗寺 (日蓮宗)
110-0001 台東区谷中 1-6-1
TEL.03-3823-4261

江戸中期の儒学者。加賀藩の出で、京都で皆川淇園に師事し、江戸で私塾を開いた。

歴史

太宰春台 | だざいしゅんたい

天眼寺 (臨済宗妙心寺派)
〒110-0001 台東区谷中1-2-14
TEL.03-3821-7718

江戸中期の儒学者。信濃国飯田城下生まれ。若い頃は畿内を游学するが、江戸の小石川に塾を開き多くの門人を集めた。

歴史

仮名垣魯文 | かながきろぶん

永久寺 (曹洞宗)
〒110-0001 台東区谷中4-2-37
TEL.03-3821-4618

江戸末期から明治初頭に活躍した戯作者、新聞記者。1894年没。戒名は「仏骨庵独魯草文居士」。

歴史

川路聖謨 | かわじとしあきら

大正寺 (日蓮宗)
〒110-0008 台東区池之端2-1-21
TEL.03-3824-0129

江戸末期の勘定奉行。幕末きっての名官吏として知られた。

歴史

蒲生君平 | がもうくんぺい

臨江寺 (臨済宗大徳寺派)
〒110-0001 台東区谷中 1-4-13
TEL.03-3821-7593

蒲生君平は江戸後期の儒学者。勤皇家。祖先が会津藩主蒲生氏郷だという家伝がある。

美術史

狩野芳崖 | かのうほうがい

長安寺 (臨済宗妙心寺派)
〒110-0001 台東区谷中 5-2-22
TEL.03-3828-1094

幕末から明治期に活躍した狩野派の最後を飾った絵師のひとりであり、近代日本画の父でもある。

美術史

川上孤峰不白 | かわかみこほうふはく

下村観山 | しもむらかんざん

安立寺 (日蓮宗)
〒110-0001 台東区谷中 5-3-17
TEL.03-3821-3813



川上不白は、江戸千家初祖。千家の茶道を江戸に広めた。信仰心も篤く、安立寺の日親堂建立のために勸進茶事を催すなど寄進につとめた。下村観山は明治から昭和初期にかけて活躍した日本画家。

美術史

鳥居清信 | とりいきよのぶ

妙顕寺 (日蓮宗)
〒110-0008 台東区池之端2-4-19
TEL.03-3821-2093

江戸中期の浮世絵師。鳥居派の祖。肉筆画も数多く手がけた。

スポーツ・芸能史

たこ八郎 | たこはちろう

法昌寺 (法華宗本門流)
〒110-0004 台東区下谷 2-10-6
TEL.03-3872-5891

プロボクサーからコメディアン・俳優になり、1985年の人気絶頂期にこの世を去った。

スポーツ・芸能史

中村勘三郎 | なかむらかんざぶろう

西徳寺 (真宗佛光寺派)
110-0012 台東区竜泉 1-20-19
TEL.03-3875-3351

昭和になって中村勘三郎の名跡を復活させた17代目、歌舞伎に止まらない演劇活動を行い2012年に惜しまれながら亡くなった18代目の中村勘三郎の墓がある。

下野材木店の取り組み
～古い卒塔婆を再生紙へ～



株式会社下野材木店(東京・西多摩)では環境問題に配慮し、これまで焼き上げ処理していた塔婆を再生紙にする設備を導入いたしました。古くなった塔婆を回収し製材で出た端材とともにチップにしています。

お問い合わせ **042-597-0839**
www.shimonozaimokuten.jp

山岡鉄舟、三遊亭円朝、弘田龍太郎の墓 (全生庵)

江戸城の無血開城を導くなど幕末から明治にかけて歴史的に重要な役割を果たした山岡鉄舟(1836-1888)。文武両道に秀で、禅の道も修めた鉄舟は、明治16(1883)年に臨済宗寺院の全生庵を建立しました。境内には鉄舟の建てた、明治維新に際して国難に殉じた人々の霊を弔う碑があります。自らもここに眠ります。その鉄舟と親交があった近代落語の祖、三遊亭円朝の墓も同寺にあり、毎年夏には円朝が集めた幽霊画が公開されます。また、ここには昭和27年に60歳で生涯を閉じた、作曲家弘田龍太郎も葬られています。「春よ来い」をはじめ数多くの童謡を遺したことで知られるこの音楽家の墓の傍らには、作品のひとつ「叱られて」の譜面が浮き彫りされた碑を見ることができます。



毎月

- 1日 **大正寺**
台東区池之端 2-1-21
- 3日 **本通寺** (毘沙門天例祭)
台東区谷中 4-2-33
護國院 (大黒天)
※社務所でスタンプを押してもらえる
台東区上野公園 10-18
寛永寺 (両大師堂)
台東区上野公園 14-5
法昌寺※毘沙門講
台東区下谷 2-10-6
- 6日 **龍王院**※開山会
台東区上野桜木 2-8-6
- 10日 **延壽寺**
台東区谷中 1-7-36
三笠教会 (8月除く)
台東区三ノ輪 1-24-5
- 17日 **寛永寺** (清水観音堂)
台東区上野公園 1-29
- 19日 **瑞輪寺**※七面大明神例祭
台東区谷中 4-2-5
龍王院※七面天縁日
台東区上野桜木 2-8-6
- 22日 **大圓寺** (10月除く)
台東区谷中 3-1-2
- 24日 **蓮華寺**※清正公様縁日
台東区谷中 4-3-1
覚性寺
台東区池之端 2-1-17
- 28日 **總持院**
台東区谷中 6-2-33
- 第2土曜日 **蓮華寺**※信行会
台東区谷中 4-3-1
- 下旬 **浄名院**※地藏縁日
台東区上野桜木 2-6-4
- 甲子日 **護國院**
台東区上野公園 10-18
- 初巳 **寛永寺** (不忍池弁天堂)
台東区上野公園 2-1
- 亥の日 **徳大寺**※摩利支天御縁日
台東区上野 4-6-2



瑞輪寺七面大明神



徳大寺 摩利支天

七月

入谷朝顔まつり
(6~8日)
眞源寺
台東区下谷 1-12-16



とうろう流し
下谷仏教会

八月

円朝まつり
(幽霊画1ヶ月公開)
全生庵
台東区谷中 5-4-7

九月

へちま供養
浄名院
台東区上野桜木 2-6-4

日親上人会
(17日)
安立寺
台東区谷中 5-3-17



日親上人は日蓮聖人の教えを深化・発展させ、焼けた鍋かむりの拷問にも耐えた傑僧。長享2(1488)年9月17日入寂。

已成金大祭
寛永寺 (不忍池弁天堂)
台東区上野公園 2-1

人形供養
寛永寺 (清水観音堂)
台東区上野公園 1-29

十月

谷中菊まつり
大圓寺
台東区谷中 3-1-2

十二月

除夜の鐘
寛永寺、ほか

一月

初詣
全寺院

下谷七福神めぐり

恵比寿|**正寶飛不動尊**
※航空安全、受験合格
台東区竜泉 3-11-11

大黒天|**英信寺**
※大念珠を手繰りまわしながら
参拝する
台東区下谷 2-5-14

毘沙門天|**法昌寺**
台東区下谷 2-10-6

弁財天|**弁天院**
台東区竜泉 1-15-9

福祿寿|**入谷鬼子母神**
台東区下谷 1-12-16

寿老人|**元三島神社**
台東区根岸 1-7-11

布袋尊|**寿永寺**
台東区三ノ輪 1-22-15

摩利支天御縁日

妙行寺
台東区谷中 1-7-37

四月

花まつり
下谷仏教会

五月

清正公大祭
(24日)
蓮華寺
台東区谷中 4-3-1

下谷仏教会の縁日に行けば、お蕎麦屋さんの入り口でカエルのいるシーンを目にすることもあります。



下谷仏教会のお楽しみいろいろ

縁日
カレンダー

今日はどこのお寺の縁日へ？

お寺では神仏と御縁のある日に
祭祀や供養が行われます。
露店も出るかもしれない縁日。
下谷仏教会の縁日をカレンダーで
チェックして出かけてみませんか。



下谷七福神めぐり

日本で福をもたらす七柱の神として信仰されている七福神。商売繁盛や五穀豊穡をもたらす恵比寿。食物・財福を司り、大黒柱の語源のひとつでもある大黒天。元はインドで戦いの神でしたが、仏教では福德増進の神として信仰されている毘沙門天。七福神の中の紅一点、音楽、弁才、財福、知恵の徳のある弁財天。元々は道教の神で南極星の化身、長寿と福祿をもたらす福祿寿。福祿寿と同一神とされることもあり、日本では白鬚明神とされることもある寿老人。そして、ふっくらとおおらかな風貌で親しまれ、手に持った袋から財を出し与えてくれる布袋は、中国で唐の末期に実在したといわれます。下谷七福神の各社寺そろっての御開帳は1月1日から7日までです。